

平成30年度第2回桑名市上下水道事業経営審議会 議事要旨

日 時・場 所	平成30年10月17日（水）午前10時～ 多度地区市民センター3階305会議室
出 席 者	委員：6名 事務局：13名 傍聴者：0名
議 事 次 第	1. 開会挨拶（企画総務課長） 2. 議事 (1) 平成29年度上下水道事業決算の概要について (2) 桑名市上下水道事業経営戦略の修正について (3) その他 3. 閉会挨拶
要 旨	1. 開会挨拶 開会后、上下水道部長より挨拶 2 (1) 平成29年度上下水道事業決算の概要について 事務局より水道事業会計の決算について説明 ・基幹管路整備事業等で経営戦略と比較して実施できていない未完成の工事等について、台風の影響を受けて被害が発生することはなかったか。 ⇒管路の破損や水の濁り等、台風による影響はなかった。 ・経営戦略に対して未完成や内容変更により多くの事業費が翌年度に繰り越されている状況をどう判断したらいいのか。 ⇒上水道事業基本計画を見直したことにより事業計画が大幅に変更となっている。複数年で行う事業等については計画どおり実施できるように、翌年度以降に取り組んでいく。 ・収益的支出の職員給与費の減少、委託料の減少、受水費の増加については一時的な変動なのか、それとも恒常的な変動なのか。 ⇒職員給与費については、退職手当額が前年と比較して減少したことによる一時的な変動。委託料の減少については、賃金の高騰等があり増加傾向であるが、入札差金や費用を抑える取り組みにより前年と比較して減少している。委託料の減少が一時的にならないように社会情勢を踏まえて取り組んでいきたい。受水費については、水質が不安定な井戸があり解消するために年数を要すると考えるため、来年度についても同程度の費用は発生すると思われる。 ・経営戦略と決算の差額について、計画的に事業が実施できなかった要因や努力によって費用を抑えた取り組み等について、今後戦略の修正に反映するために把握しておく必要がある。 ・今後の純利益の見込みについて。 ⇒平成18年度から平成29年度を比較すると、人口は約1,800人増加しているが有収水量は約260万m ³ 減少している。市民の節水意識の向上や民間企業の機器の発達が要因であり、人口と有収水量のバランスを基に考えると料

金収入は厳しさを増していくと思われる。

(2) 事務局より下水道事業会計の決算について説明

・損益勘定留保資金および減債積立金の残高について。

⇒過年度損益勘定留保資金は4億4,400万円余。過年度までの減債積立金は2億6,500万円余。平成29年度の損益勘定留保資金は6億7,500万円余。平成29年度の減債積立金は純利益である1億6,300万円余。

・流域下水道建設負担金について経営戦略と比較して金額が増加しているが、当時の見込みとしてどの程度精査することができたのか。

⇒経営戦略策定時に今後の建設負担金について照会を行ったが、増額の可能性についての回答はなかったことから現状の金額で見込みを算出した。今後については一定の上昇を見込む必要があると考える。

・他会計借入金の条件について。

⇒水道事業会計から平成28年度以降、毎年1億円を3年間借り受けるものであり、利率については金融機関の利率を参考にしている。

・他会計繰入金の今後の見通しについて。

⇒経営戦略をベースに予算要求に取り組んでいるが、他会計繰入金は年々減少しており、非常に厳しい状況を実感している。修正後の経営戦略では慎重に金額を見込む必要がある。

(3) 桑名市上下水道事業経営戦略の修正について

事務局より桑名市上下水道事業経営戦略の修正について説明

・修正が必要な要因で新たな事象としての項目があるが、これらが経営戦略の修正に与えるインパクトがどの程度あるのか。経営戦略の修正は市民が負担する料金に影響を与えることから丁寧な説明が必要と考える。

⇒新たな事象がどのような要因で発生しているのか、また金額的な影響がどの程度あるのか、次回審議会で提示させていただく。

・投資財政計画のシミュレーションで再検討する項目について、見直した結果を示していただきたい。

⇒次回審議会で提示させていただく。

・一般市民は水道、下水道を合わせた金額を明細で確認するので、桑名市の水道料金が他市町と比較して安価であることを多くの人は知らないのが現状であり、市民に対して分かりやすく伝えていく努力が必要。

(4) その他

事務局より、次回の審議会の予定について連絡

3. 閉会挨拶

上下水道部長より挨拶

(以上)